国語１		東京書籍株式会社（2東書）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【基礎】基礎的、基本的な知識を確実に習得できるように、各学年に応じたノートの作り方を掲載している。 ○【言語】１年生の促音、拗音を習得させるための活動では、リズムに合わせて手をたたくなどの動作化により、幼児教育からの円滑な接続について工夫がみられる。（1年上P39） ○【言語】単元ごとに扉ページを設け、単元を通して取り組む言語活動をわかりやすく掲載している。 ○【言語】日常生活に必要な国語の能力を育てるため、写真やグラフ・表を活用したりメモを使って自分の考えをまとめたりするなど、言語活動が具体的に提示されている。（5年P26,P98,P160） ○【読書】著名人が本について語る単元や、本の表紙・概要などわかりやすく紹介してあるページ等、児童が読書に興味をもちやすいよう数多くの工夫がある。（各学年「本は友達」「○年生の本だな」） ○【伝統】伝統的な言語文化に関する事項が、１年昔話、２年言い伝え、３年落語、４年ことわざ・百人一首、５年古文、６年漢文・俳句・故事成語と、各学年で異なる教材が効果的に取り上げられている。（各学年「日本の言の葉」）
	2 その他	○巻末の付録に、その学年で身につけさせる言葉の力を、３つの領域ごとにまとめて提示している。児童にもわかりやすい。（各学年「ことばの力」） ○児童が興味をもつように、身近なメディアなどを用いている。（5年P201など） ○３つの領域の能力を伸ばすため話題や題材が偏りないよう配慮されている。
	3 全国 調査	○情報を活用し自分の意見を書くために、情報を比較・活用できるように教材を工夫している。（5年P65,6年P61） ○高学年では、複数の文章や資料を読み取り、自分の考えを理由や読み取ったことを整理して書く力を育成するように配慮されている。（5年P194,6年P90） ○書く力を身につけるため、日記などの書き方について丁寧に分かりやすく説明している。（1年下P48） ○話し合い活動のポイントについて、学級会と討論会の２つの教材に分けて学習することで、２段階のスモールステップを踏んでいてわかりやすい。
	4 外的 要素	○日本の四季を撮った鮮明な風景写真が掲載されていて、日本の四季を感じることができる。（各学年「日本語のしらべ」） ○表紙は色鮮やかで児童の楽しそうな活動が描かれている。 ○文字の大きさフォント、色使いが見やすく視覚的に分かりやすい。 ○写真やカットの大きさや位置など、児童の理解に有効的に掲載されている。
	5 構成 配列	○入門期には「みんなともだち」の言葉通り、何かを一緒に作り上げることで達成感や仲間意識を高める内容になっている。（1年上P1～P11） ○冒頭にあいさつを取り上げ、学校生活の第一歩としてのコミュニケーション力をつけることを意識している。（1年上P1～P11）
	6 資料	○２学年以上の教科書の冒頭に学習の流れを示してあり、児童が見通しをもって自主的に学習を進めることができる。 ○見開きでイラスト化して各領域ごとに教材を示すことで、年間の流れを児童がわかるようになっている。このことは自学自習を意識した手引きとして活用することができる。 ○巻末に物語文と説明文を載せてあり、並行読書や多読につながる。（各学年「言葉の世界」）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【言語】既習漢字の練習ページでは、枠内に読み仮名が書いてありわかりにくい。（各学年「漢字の練習」）
	2 その他	○「読むこと」に関する題材について、海外文学の翻訳教材が少ない。
	3 全国 調査	○必要な言葉を落とさずに話すことを目的とした単元が少ない。
	4 外的 要素	○高学年が合冊であるため重い。 ○「スイミー」など、いくつかの教材において下地のイラストと文字が重なるなど、配慮に欠ける。（1年下P112）
	5 構成 配列	○「スイミー」を１年生の教材にするのは、発達段階から考えてむずかしい。
	6 資料	

国語２		学校図書株式会社（11学図）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語】「漢字の広場」では想像力をはたらかせて学習できるよう工夫している。（各学年「漢字の広場」） ○【言語】目次に「言葉」に関する欄が設けられ、言語活動を意識しやすい。（各学年目次） ○【言語】教材文のすぐあとに「言葉」に関する教材を取り入れ、児童は言葉の特徴やきまりに注目しやすい。 ○【基礎】難しい言葉の意味が、本文欄外に説明されていてわかりやすい。
	2 その他	○学習活動のポイントを明示してあり、学習するねらいをしっかりととらえて活動できる。（各学年「国語のカギ」） ○児童が興味をもつように、身近なメディアなどを用いている。（5年P201など） ○３つの領域の能力を伸ばすため話題や題材が偏りないよう配慮されている。
	3 全国 調査	○言葉の特徴やきまりに注意し、文章を目的に応じて読んだり話し合ったりする力を育成するように配慮されている。（各学年「言葉のきまり」「言葉のいずみ」） ○複数の資料を比較する教材があり、自分の考えを理由づけて書いたりすることができる。（5年下P30） ○１年教材「ともだちとはなしましょう」では、お話の中に基本文型の例があってわかりやすい。（1年上P34 ）
	4 外的 要素	○文章と関連つけながら写真が効果的にあげられている。 ○写真と挿絵を文章の内容の読み取りに合わせてうまく組み合わせ、わかり易く工夫されている。 ○挿し絵や文字の印刷濃度がしっかりしていて見やすい。
	5 構成 配列	○発達段階を考慮して各領域がバランスよく掲載されている。 ○学習指導要領の各学年の目標が達成できるように教材が計画的に配列されている。 ○読み物教材や説明文教材、詩や伝え合う活動の教材等のバランスがよい。
	6 資料	○点字表の実物をつけるなど、教材と関連づけられている。（4年下P16） ○巻末の付録は、児童の自学自習に役立つ。（各学年「授業で使う言葉」） ○資料の中で、国語科の伝統的な教材が残されている。（4年「一つの花」）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【読書】本の表紙の印刷が小さいなど、読書に関わる本の紹介の仕方が児童の興味をひく工夫に欠けている。（各学年「本と友達」） ○【読書】読書活動と各領域の教材との関連性が低い。 ○【読書】紹介している冊数が少ない。
	2 その他	○説明文の題材が、特に中学年において学年の発達段階よりやや難解な内容となっている。 ○話し合う学習の教材で、各学年において活動内容の説明がわかりづらい。
	3 全国 調査	○複数の文章の資料を挙げ、比べたり考えたりしながら思考力をつける教材が少ない。 ○低・中学年の「書く」領域の教材について、自分の考えを書く活動の説明が少ない。 ○複数の文章や資料を読み取り、自分の考えを整理して書く力をつける単元が少ない。
	4 外的 要素	○紙の厚さの違うページがあり、めくりにくい。（1年上P1） ○文字が小さいところがある。紙面上に空白があり、読みづらい。 ○挿絵が全体的に古い。
	5 構成 配列	○学習の仕方、調べ方のページは、言葉の説明に終始しており、自学自習の有効な手立てとしては活用しづらい。
	6 資料	○文字の量が多く読みにくい。 ○資料の掲載内容が、児童に身近な内容ではなく興味がもちにくい。

国語３		株式会社　三省堂（15三省堂）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【基礎】１年「かたかな」では、書き順が赤の番号で示してあり、理解しやすい。（1年上巻末） ○【言語】筆順や読みが色分けされていて見やすい。（各学年巻末） ○【読書】「図書館へ行こう」のページがあり、読書活動との関連が具体的で、位置づけが効果的である。（各学年P12）
	2 その他	○低学年で、原稿用紙に書いた文章を多く例としてあげているので、原稿用紙の使い方がわかりやすい。（1年下P.22、96、2年P104,146など） ○中学年では、興味関心をもって読み進めていけるように題材が工夫されている。また、読んだことをもとに「書く活動」が設定されており、書く能力の伸長につながる。（４年P80） ○３つの領域の能力を伸ばすため話題や題材が偏りないよう配慮されている。
	3 全国 調査	○「書くこと」では、情報収集・整理する方法などについて例が示されており、見通しをもって書く活動ができる。（5年P156） ○文章にあう図や挿絵グラフなどを取り入れて、複数の資料を関連づけて読み取る単元設定がなされており、資料を読み取る能力が育成できる。（5年P164） ○資料の比較して読み取る活動について、活動内容の例示がわかりやすい。（4年P154）
	4 外的 要素	○表紙も児童に親しみやすい図柄で表されている。 ○文字・フォント・行間が整っている。
	5 構成 配列	○「学習すること」のページがあり、見通しをもって学習内容を理解することができる。（各学年冒頭） ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材が計画的に配列されている。 ○大単元の中に複数の領域を学習できるように教材が盛り込まれている。
	6 資料	○６年の「二十一世紀に生きる君たちへ」は、卒業を控えた子どもたちと共に読む、最後の教材としてふさわしい。（6年P234） ○自学自習と発展に関する資料が見やすい。（「学びを広げる」）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【言語】単元のねらいと教材とがうまく合致していないものがある。落語の「じゅげむ」は、ねらいが「声の出し方を工夫する」となっているが、じゅげむの内容でそのねらいを達成するのは難しい。また、「聞く人のことを考えて話そう」は、ねらいと内容の関連がわかりにくい単元設定になっている。（4年P54） ○【読書】紹介している本の数が少ない。 ○【伝統】物語文教材の中で、昔話に関する教材の割合が少ない。
	2 その他	○「読むこと」に関する題材について、海外文学の翻訳教材が少ない。 ○話し合う学習の教材で、低・中学年において活動内容の説明がわかりづらい。
	3 全国 調査	○必要な言葉を落とさずに話すことを目的とした単元が少ない。 ○低学年の「書く」領域の教材について、自分の考えを書く活動の説明が少ない。 ○複数の文章や資料を読み取り、自分の考えを整理して書く力をつける単元が少ない。
	4 外的 要素	○「てびき」のオレンジの文字が見づらい。また、黄緑やピンクなどの文字も見にくい。 ○文章の内容と挿絵に違和感がある単元があり、物語の世界に入りづらい。（2年「かさこじぞう」、4年「ごんぎつね」） ○写真の取扱いが児童の興味を引きにくい。
	5 構成 配列	○挿絵と文章のバランスが悪い教材が多い。 ○物語文の教材が少なく、３つの領域のバランスがよくない。
	6 資料	○付録の内容はよいが、薄くやや少ない。 ○資料の挿絵の色づかいが暗い。

国語４		教育出版株式会社（17教出）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【言語】筆順や部首が丁寧に取り上げられている。（各学年「漢字を学ぼう」） ○【読書】読書活動が各領域の教材と関連付けて掲載されている。（各学年「本を読もう」） ○【読書】「こんな本も一緒に」のコーナーがあり、読書活動につながる。
	2 その他	○話題や題材は、身近なものやもっと知りたい事柄が挙げられ、児童の興味・関心・意欲を喚起する内容である。 ○依頼文と礼状など色々な種類の「手紙の書き方」を系統的に挙げている。生活の中で使えるものをどのように書き表すとよいか、具体的にわかりやすく取り上げている。（3年上P98） ○３つの領域の能力を伸ばすため話題や題材が偏りないよう配慮されている。
	3 全国 調査	○中学年の教材では、接続語を使って内容を分けて書く活動について丁寧に説明され、練習題も適切である。（4年下P54） ○４年教材「ウミガメの命をつなぐ」では、グラフや写真の内容をもとに感想を書く活動があり、情報を読み取って自分の考えを書く力の育成に有効である。（4年下P6）
	4 外的 要素	○イラストと詩のバランスなどが、発達段階に応じて工夫されている。（各学年裏表紙） ○１年生の仕掛けのあるページは、子どもが興味をもってページを進める工夫がされている。 ○教材文のフォントが大きく、見やすい。 ○写真を多く使い、教材文の内容と合っている。
	5 構成 配列	○低学年では、生活科や学校生活全般と関連した教材がある。（2年上「たんけんしたことを伝えよう」） ○高学年では、他教科との関連性が高い教材がある。（4年「見学したことの報告文」5年「世界遺産」6年「伊能忠敬」） ○学習の仕方、調べ方のページは、自学自習の有効な手立てとして活用できる。
	6 資料	○点字表の実物をつけるなど、教材と関連づけられている。（4年下P89） ○漢字辞書の配列が良く分かりやすい。（各学年巻末） ○巻末の付録は、自学自習に関して有効な手立てである。（各学年巻末）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【言語】ねらいが「読む」と「書く」と混在している教材がある。（6年「意見文を書こう」） ○【読書】本の紹介の掲載場所が分かりにくい。（各学年「○年生で読みたい本」）
	2 その他	○「読むこと」に関する題材について、海外文学の翻訳教材が少ない。 ○話し合う学習の教材で、各学年において活動内容の説明がわかりづらい。
	3 全国 調査	○「書くこと」の内容がやや難解で、目的意識を持ちにくい教材がある。（5年上「情報ノート」,6年上「学校パンフレット」） ○複数の文章や資料を読み取り、自分の考えを整理して書く力をつける単元が少ない。 ○「書く」教材のなかで、資料を活用しているパターンが少ない。
	4 外的 要素	○文字の強調のためゴシックなどを多く使い、大切な言葉に注目しにくい。 ○挿絵の色が不鮮明である。
	5 構成 配列	○説明文が難しく、分かりにくい。 ○しりとりの教材が、１年下に配置されているが、発達段階から上の方が適切である。
	6 資料	○落語の教材で、登場人物に年齢設定があるため、読みが難解になる。（4年上P80） ○資料全体において行間が狭いため読みにくい。

国語５		光村図書出版株式会社（38光村）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【基礎】１年生入門期に「さあ　はじめよう」を特設して、ソーシャルスキルを中心に何を身につけるのかを明確に意識することができる。（1年上P9） ○【基礎】各教材において、読む活動と書く活動とがうまく関連づけられているので、言語活動が深まる。 ○【伝統】昔話や神話などを「聞いて読む」という設定がされていて効果的である。 ○【伝統】伝統的な言語文化を扱ったページでは、身の回りの季節の言葉に気づくきっかけとなる題材を取り上げ、児童が興味をもちやすい。（各学年「きせつの言葉」）
	2 その他	○２年生以上の各学年の初めに「言葉の準備運動」という「話すこと・聞くこと」教材を位置づけることが、先生と児童、児童相互の人間関係づくりに有効である。 ○「振り返り」を全領域に位置づけ、常に「目標」に対する「自己評価」を行えるようにしている。また、「どのようにしたか」「どんなことに気をつけたか」を振り返るようにしており、児童が自分の言葉で考えることができる。 ○「読むこと」に関する題材について、朝鮮半島の民話など海外文学の翻訳教材が豊富である。（3年「三年とうげ」など） ○３つの領域の能力を伸ばすため話題や題材が偏りないよう配慮されている。
	3 全国 調査	○５年生の討論会の教材では、準備から会の進行まで詳細に学習活動例があり、わかりやすい。 ○高学年教材では、複数の資料をもとに自分の意見を書いたりする活動が詳しく提示されていてわかりやすい。（5年P138） ○ブレインストーミングを活用するページは、話し合い活動で有効に活用することができる。 ○比べて読むための資料が単元の次についている教材があり、理解を深める効果がある。
	4 外的 要素	○表紙のイラストが児童にとって好感が持てるような図柄で、６年生の教科書に１年生からの図柄が出てくることもつながりを意識している。 ○児童が学習しやすいよう紙面レイアウトや教材内容、イラストと文字の境界など細やかに配慮されている。 ○５・６年は学年１冊の合本であり、１年間を見通せるつくりと、中学校への接続を意識できるつくりである。
	5 構成 配列	○「学習をみわたそう」では、学年の発達段階を意識し、活動の手順を明確に示し、学習の見通しがもてるようにしている。自主学習する児童にとってわかりやすい。（3年以上冒頭） ○新出漢字が初めて出てくる「うみのかくれんぼ」では、２文字の新出漢字を最後に抜き出し、発達段階や学習負担に配慮している。（1年上P119） ○新聞づくりや地域の防災や点字など、教材文の内容が幅広く、充実している。 ○発達段階に応じた物語文が適切な時期に取り上げられている。
	6 資料	○神話や読み聞かせが充実している。特に、読み聞かせは挿絵を見て話を聞くので児童が想像をふくらませることができる。（各学年巻末） ○付録の内容が、各領域にわたって充実している。（各学年「学習を広げよう」） ○「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の掲載配分がよい。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【基礎】１年生教材「は、を、へを使おう」は、学習内容からみてもう少し早く掲載する方がよい。
	2 その他	○話し合う学習の教材で、各学年において活動内容の説明がわかりづらい。
	3 全国 調査	○低・中学年の「書く」領域の教材について、自分の考えを書く活動の説明が少ない。 ○複数の資料を読み取る教材について、中学年で扱いが少ない。
	4 外的 要素	○入門期の教材について、挿絵が抽象的で児童が話の内容を想像しづらい。（1年上冒頭） ○高学年が分冊でないため重い。
	5 構成 配列	○入門期の教材が、登場人物が多いため、考える焦点が拡散する。（1年上冒頭）
	6 資料	○新出漢字の掲載場所がわかりづらい。